

# 30E13-pm01

デザートレシピを用いた、小児の散剤服薬向上についての報告

○峯岸 昇<sup>1</sup>(<sup>1</sup>くすりの福太郎)

【目的】ジュースやヨーグルト、市販の服薬ゼリーを用いても散剤の服薬が困難な小児が少なからず見受けられる。単品の食品と混合したがうまく飲めなかった場合に、見た目にもおいしそうなお口にしたいくなるデザートを用いて内服できないのか？そのようなメニューを薬剤師の視点で「小児服薬補助レシピ集」として作成したので、その服薬向上効果について報告する。

【方法】散剤が内服できない理由は「苦味」「粒子径」「色調」であり、それらを克服できるのはどのような食材が最適かを調べた。その食材と薬物の相互作用を確認し、家庭で短時間に作れる10種類のメニューを掲載したレシピ集ができた。薬局における服薬指導で、散剤の服薬に苦労していると思われた保護者にレシピ集を持ち帰りいただき、服薬成果を電話インタビューすることにより効果を判定した。

【結果】最も効果が高かったのは、バナナを使用したメニューでアイスクリームとの混和が好評であった。このレシピ集のままで服薬できた子供は約5割で、他の3割は食材のカットや混合比のアレンジにより服薬でき、計8割が服薬に成功した。2回目以降はレシピ集を使用しなくとも、他の単品食材で服薬できるようになる子供が増えた。

【考察】製薬会社により添加された甘味はケミカルなものであり、それが子供達へクスリであるという警戒心を抱かせているものと考えられる。手作りメニューでも多少の苦味が残るものの、母子のスキンシップにより作ったデザートは「作る楽しみ」と「食べる楽しみ」を兼ねているので、何よりの安心感があるため自発的な服薬がなされたと推測される。